

教育広報

県北の教育

発行所

福島県教育庁県北教育事務所

福島市舟場町2番1号

電話024-523-1647

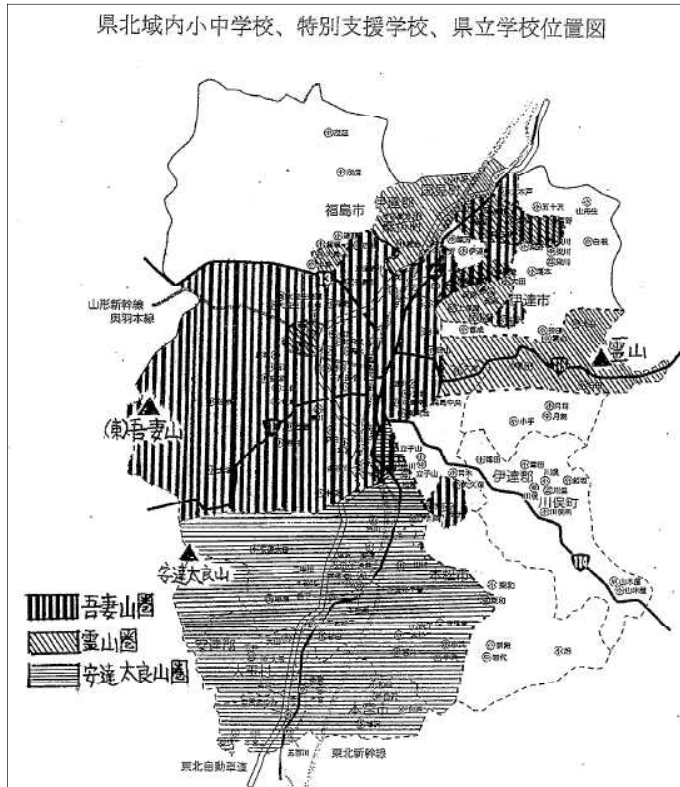
発行者 面川三雄

巻頭言

県北版「兔追いしかの山」

県北教育事務所業務次長 齋藤 吉成

県北域内小中学校、特別支援学校、県立学校位置図



早春にだけ姿をあらわす「雪うさぎ」、そのすみかは福島の吾妻山。伊達には国の史跡、名勝として指定を受ける霊山。安達には高村光太郎『智恵子抄』でもなじみの安達太良山。県北にはふるさととしての「かの山」が複数存在しそうです。

地理学者の朝倉隆太郎は、著書『山と校歌』で、「校歌の歌詞には郷土（＝ふるさと。齋藤による註。）の自然環境や歴史的背景が取り上げられている。郷土の自然環境や歴史的背景に託して、その学校の教育目標がうたわれている。（児童生徒が機会あるごとに）校歌をうたうことで、自分の学校への所属感や仲間との連帯感、郷土に対する愛情が養われる。」と記しています。

今回、県北域内全小・中・特別支援学校の校歌の歌詞に取り上げられている山を特定し、特定した山個々に、それぞれの山を取り上げている学校の学区をもとにして地域区分を試みました。「かの川」編は、紙面の都合で割愛し別な機会とします。

概観すると、福島は「吾妻山」圏、伊達は「霊山」圏、安達は「安達太良山」圏となります。しかし、精査すると、遠くおおとりの大きな山の眺望がきかない地域では、近くおおとりのより身近な山が歌われています（例：福島市飯坂町では鵬（または鵬鳥）山（＝館山）や愛宕山。伊達市月館町や福島市飯野町、伊達郡川俣町では女神山や花塚山。二本松市（旧岩代町）では麓山（＝羽山）や日山）。一方、見晴らしのよい地域では、方角の異なる遠くおおとりの山々が歌われたり（例：笹谷小や大枝小の吾妻山と霊山）、遠くと近くの身近な山々が歌われたり（例：福島三小や月輪小の吾妻山と信夫山。森合小は安達太良山も）しています。松川（福島市）生まれの私は、小学校で♪～朝晴れわたる 吾妻山～♪、中学校で♪ 安達太良の峰の白雲～♪と歌って育ちました。そして、いまも日々、朝日に映える安達太良山、夕日に照らされる吾妻山を眺めて、「ふるさとの山に向ひて／言ふことなし／ふるさとの山はありがたきかな」（石川啄木）を、実感しています。

改めて二つの名峰を眺めます。思いを馳せるのは、3. 1 1以降峰々の向こうに避難している、いまだ1,200名をこえる小中学生のこと。子どもたちには、いま眺める山があるのだろうか？あるとすれば、どんな山なんだろうか？「ふるさとは遠きにありて思ふもの」（室生犀星）だけでなく、たとえ、こころざしをはたさずともいつでも帰れるところ、それが「ふるさと」。福島の山々はまだ雪におおわれているけど、これからあおあおとしてくる。ほら、君も日々眺めていた山がつぶやいたよ。きこえた？

…「ヤマハアオキ フルサト」ガ、マッテル！ キミノ カエリヲ。…

放課後子ども教室 スキルアップ教室・オープン教室

県北域内では、放課後子ども教室の充実を図るために、スキルアップ教室とオープン教室を実施しました。各教室が抱える課題の解決や、新たな活動メニューの導入に向けて大いに役立ったと好評でした。

- 第1回スキルアップ教室(7月18日:福沢たのしい教室)「キンボール」
- 第2回スキルアップ教室(9月28日:ほばらっ子クラブ)「気になるお子さんへの対応の仕方」
- 第3回スキルアップ教室(10月26日:大山子ども教室)「英語遊び」
- 第1回オープン教室(12月1日:わだ遊友クラブ)「おはなし会」
- 第2回オープン教室(1月26日:あだち地域子ども教室)「将棋・茶道」
- 第4回スキルアップ教室(2月15日:玉井子ども教室)「民話」

今年度は以上のようなテーマで研修会を実施しました。来年度も現場のニーズに応じた子ども教室の研修を企画していきます。



(第2回オープン教室の様子)

子どもの読書活動支援ボランティアのための研修会

2月15日に大玉村あだたらふるさとホールにおいて、放課後子ども教室とのタイアップで本研修会を実施しました。本研修会は、地域での子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館等への支援を行える人材を養成することを目的としています。研修には、県北域内の読書ボランティア26名、子ども教室関係者36名が参加しました。研修では、大玉村の語り部である後藤みづほ氏から「おはなし会の一工夫」という題目で講義をいただきました。講義はこれまでのエピソードを交えて、民話のよさや、今民話の果たすべき役割、民話にも絵本にも共通するやさしい言葉の大切さなどにふれるお話でした。その後、玉井子ども教室の子どもたちに「民話」を語る実演をしていただきました。心温まる民話の世界を堪能するとともに、子どもたちに接する際の「やさしい言葉」の大切さについて理解を深めることができました。



(いろりを囲んで民話の実演)

第2回地域家庭教育県北ブロック会議 1月25日(金)

県北域内の学校・PTA・子どもに関わる諸団体の関係者による2回の会議を実施し、6月の第1回会議では、子どもの生活習慣の向上を図るために学校・PTA・子どもに関わっている諸団体が連携して取り組むことの大切さが話し合われました。12月9日には地域家庭教育県北ブロックセミナーを開催し、PTA関係者約150名の参加をいただきました。今回の第2回会議では、今年度の取り組み状況と平成25年度に向けた取り組みの在り方について協議しました。協議では、今行っている、子どもの生活習慣の向上を図るための取り組みを「見直したり、視点を変えたり、少し工夫を加えたり」することで効果を高めていくことが大切であることを確認し、県北域内の学校やPTA、子どもに関わっている諸団体に、効果的な連携の取り組みを広げていくことにしました。

十七字のふれあい事業 ～ ふみ出そう 新たな明日へ つづく道 ～

今年もたくさんのご応募をいただきまして、ありがとうございました。県内では、36,037組、県北域内からも3,370組の応募がありました。県北域内の入賞作品をご紹介します。

- | | | | |
|---------------|----------------------|---------|-------|
| 【最優秀賞】 | 平泳ぎ お父さんまで あと3秒 | 安達太良小5年 | 塩見 颯己 |
| | 本気出し 勝った翌日 筋肉痛 | 父 | 塩見 友彦 |
| 【佳作】 | ままみてて じょうずにできた やさいきり | とうわこども園 | 渡辺 詩織 |
| | ふぞろいの 野菜を見ては 美味さ倍 | 母 | 渡辺 仁美 |
| | 夏の夜 小ささ気づく 祖母の肩 | 安達中2年 | 齋藤 敏貴 |
| | 肩をもむ 孫の力に たくましさ | 祖母 | 齋藤 力子 |

1 事故防止について

学校は、最も忙しい時期を迎えているかと思えます。こうした時期は、予期せぬ事故が発生することがあります。また、車の運転なども注意散漫になりがちです。服務倫理委員会等での話し合いや日常の言葉かけなどを通じ、学校全体で危機意識を高め、事故防止に努めたいものです。

次の3点について、特に注意をお願いします。

(1) 情報管理の徹底

- ・ 紙媒体、電子媒体を問わず、紛失・流出に注意しましょう。保管場所等の再点検をしましょう。
- ・ 管理責任者を明確にするとともに、引継ぎを確実に行いましょう。
- ・ 保管期限が過ぎた情報などは、早めに適切に処分しましょう。

(2) 交通事故防止

- ・ 交差点での追突、出会い頭の衝突事故などが相変わらず多数発生しています。十分に注意しましょう。
- ・ 歓送迎会等、飲酒の機会には、飲酒運転防止策を確実に実行しましょう。
- ・ 車検切れ、運転免許の未更新等、各自でチェックを確実に行いましょう。

(3) 適切な会計処理

- ・ 各種会計の決算にあつては、管理職等による確実な監査を行うようにしましょう。
- ・ 実際の会計事務では、担当まかせにならないようにし、必ず複数の目でチェックを行いましょ

2 事故が発生したときの手続きについて

教職員が関係する事故が発生した場合には、管理職に報告・相談するとともに、適切な手続きが求められます。最近、公務中の負傷にもかかわらず、安易に健康保険を使用したために、遡って手続きが求められる事案が発生しています。こうした事案では、公務災害補償等を念頭においた対応が大切になります。



学校教育課(指導)

福島県学力調査の結果を活かした取組みを

平成24年11月に福島県学力調査が小学校5年生と中学校2年生を対象に実施され、平成25年1月には調査結果が送付されました。各学校においては、調査結果を分析し、自校の課題を明確にして、その課題解決のために具体的な対策を立てて実行することが求められます。

そこで、以下の「今後の取組みのポイント」を参考に、各校の実態に応じた対応をお願いいたします。

今後の取組みのポイント

1 各学校の結果分析と課題の明確化

- 各学校の課題に対する、教師間の共通理解と共通実践



2 三学期の授業の充実

- 教育課程の完全実施と充実した授業
- 補充、発展など、余剰時数の効果的な活用

3 基礎的・基本的な事項の確実な定着

- 定着確認シートやまとめシート、フォローアップシートの活用
- 学習問題の重点化と繰り返し学習
- 問題が解けない児童生徒への具体的な支援

4 よりよい学習・生活習慣の確立に向けた家庭や地域との連携・協力

- 各種だより等による情報の提供
- 授業参観、PTA会合等による情報の共有化

言うまでもなく、「学力の向上」のためには授業の充実が最も大切です。ただ、1年間のまとめになるこの時期に、もう一度児童生徒の実態を把握し、必要な対応策を講じて実践していくことも大切です。

なお、教科ごとの傾向や課題、指導のポイントについては、すでに配付しました『平成24年度「福島県学力調査」結果を授業に活かすために』をご活用ください。

平成25年度指導の重点全体構想
福島県教育庁県北教育事務所



やがて立ちあがる子どもたちに
生き抜く力の育成

未来を拓く県北の教育

福島県総合計画「ふくしま新生プラン」(教育分野)

主要施策 「知・徳・体のバランスのよい育成と
生き抜く力をはぐくむ教育を進めます」

主な取組

- 豊かな心の育成
- 確かな学力の育成
- 東日本大震災・原子力災害を踏まえた教育 等
- 健やかな体の育成
- キャリア教育

第6次福島県総合教育計画

基本理念 “ふくしまの和” で奏でる、こころ豊かな
たくましい人づくり

- 基本目標 ○ 知・徳・体のバランスのとれた
社会に貢献する自立した人間の育成
- 学校、家庭、地域が一体となった
教育の実現
- 豊かな教育環境の形成

『確かな学力の向上』

◎ 互いに学び合う充実した授業づくり

- 実態と目標を踏まえた単元構想
- 本時のねらいを明確にした授業設計
- 学びがよいある学習課題の設定
- 考えをもたせる教師の働きかけ
- 効果的な『学び合い』による『思考の共有と吟味』
- 評価の工夫とまとめの充実

◎ 学びを支える学習基盤づくり

- 発達段階に応じた「学び方」「学習訓練/習慣」の確立
- 学びの習慣を育てる「授業」「家庭学習」「朝の学習等」の
学習サイクルの確立
- 読書活動の推進による習慣化

◎ 教師の力量を高めるための体制づくり

- 子どもの学びの姿に即した、実効ある校内研修の活性化
- 校内外の各種研修会等における研修成果の共通理解・共通実践
- 教師の授業力を高める継続した授業研究

『豊かな人間性・社会性の育成』

◎ 自他のよさがわかる心の基盤づくり

- 子どもが安心できるための自己存在感や充実感を感じる「居場所づくり」
- 自己の生き方についての考えを深めさせる心に響く道徳の授業づくり
- 集団の一員としての自覚を深めさせる特別活動の指導の工夫

◎ 自他のよさを認め合う人間関係づくり

- すべての子どもが活躍し、主体的に取り組む協同的な活動としての「絆づくり」
の場の設定
- 多様な感じ方や考え方によって学び合わせることができる道徳の指導の工夫
- 大人や異年齢の子どもたちとの交流や体験活動、学校間や異職種間の交流

◎ 一人一人のよさを伸ばす機能する指導体制づくり

- 普段の子どもの姿を見る目と子どもに寄り添う心の意識化
- 教育相談の充実と心のケアのための支援
- 問題行動等の早期発見、早期対応、早期解決のための組織的な取組み
- 問題行動の未然防止に向けた家庭や地域、近隣校、関係機関との連携

『健やかな体の育成』

◎ 生涯にわたって健康を支える体力づくり

- 体力向上推進計画書に基づく体力向上策の具現
- 新体力テスト等による実態の把握及び具現策の評価
- 動きの質を高める体育・保健体育の授業への改善
 - 効率よく多様な動きを体験できる運動身体づくりプログラムへの改善(小)
- 運動の習慣化につながる「体づくり運動」の工夫
- 実質的な運動の時間の確保
- 自主的に運動に取り組む場や機会の工夫
- 体を動かす遊びの推奨

◎ 健康で安全な生活の実践をめざす習慣づくり

- 健康に関する知識を身に付け、自ら実践する力の育成を図る指導の推進
- 家庭との連携による基本的な生活習慣の確立
- 身の回りの危険を予測し、回避する能力を育む指導の推進
- 主体的に判断し、行動する態度を育む防災教育、放射線教育の実践
- 家庭、地域と一丸となった交通安全指導の徹底

学級・学習集団づくり

関係機関との連携

- ◎ 関係機関の機能を理解した効果的な活用
 - 関係機関の具体的な把握
 - 学校課題の解決につながる関係機関との連携を図る管理職等のコーディネート
- ◎ 各校種の実態、教育内容の理解に基づいた指導方法の改善
 - 連携のための時間、場所等の確保
 - 情報の共有と共通実践

子どもに育みたいこと

- 「聴く」「話す」ことができる学習態度
- 相手を尊重し、自分を律することのできる態度
- 集団の一員として目標をもって取り組み、困難を乗り越える態度
- 集団として高い理想をもった自主的・自立的な行動

教師(担任)がこころがけたいこと

- 互いを尊重し合い、認め合う支持的風土の醸成
- 自主性・自立性を育む教育活動の展開
- 一人一人の特性を踏まえ、個を大切に学級経営
- 是是非非について褒める叱ることのできる姿勢

学校に求められること

- 学年、学校全体で教師(担任)を支える体制
- 学校、学年で共通理解し、共通実践できる体制
- 同僚性を発揮し、教師の指導力を向上させる環境
- 学校全体で、子どもと関わる時間を確保できる環境整備

家庭や地域社会との連携

- ◎ 望ましい生活習慣、学習習慣の確立
 - 具体的方策についての共通理解・実践
 - 家庭学習の仕方等についての周知
- ◎ 家庭や地域社会の教育力を生かした教育活動の充実
 - 地域の教育力を活用した教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の実施
 - 家庭、地域との協力による学校安全体制の強化

『特別支援教育の充実』

◎ 全教職員の連携協力による校(園)内支援体制づくり

- 特別支援教育コーディネーターを中心とした研修会やケース会議の実施

◎ 集団の中でのよりよい友達関係づくり

- 教師が仲立ちとなり、よりよい友達との関わりをつくるための支援の工夫
- 組織的、計画的、継続的な交流及び共同学習の推進

◎ 一人一人のニーズに応じた指導体制づくり

- 子どもの特性の把握に基づく指導のねらいや方針の明確化
- 「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の作成・活用

◎ 家庭、地域及び関係機関との連携づくり

- 保健福祉等関係機関との連携や特別支援学校のセンター的機能の活用
- 研修会等による家庭や地域への特別支援教育に対する継続した啓発

『幼稚園教育の充実』

◎ 生活の連続性や学びの連続性を踏まえた指導計画づくり

- 幼小の教育内容や指導のあり方等についての共通理解
- 家庭、地域社会、小学校、保育所等と互いに連携・協力を見通した指導計画の作成

◎ 主体的な活動が確保できる保育の場づくり

- 幼児の心の動きを理解し、発達の見通しや活動の予想に基づいた環境の構成
- 個々の実態に応じた指導の内容や方法の工夫と組織的、計画的な保育の実施

◎ 次の支援・保育につながる評価体制づくり

- 幼児の発達の理解と課題に基づいた計画の見直しや環境の再構成
- 保育カンファレンスなどをもとにした指導の振り返りによる幼児の見取りと保育への活用